

Title	三田哲学会行事報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1992
Jtitle	哲學 No.93 (1992. 1) ,p.419- 421
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000093-0420">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000093-0420</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

湾岸戦争に始まりソ連邦解体に終わる今年ほど歴史の激動をまざまざと実感させられた年はない。一体何が人々の意識の中で胎動しつつあるのか、何がこの変革を生ぜしめているのか、定かには誰も答えられぬまま時代はうねり脈打ち続ける。変化の早さは恐らく誰の予想をも超えていよう。次の時代を見はるかすことのできぬこの世紀末にあって、改めて、人間社会の秩序は未だ一度たりとて確定されてきたことがないことを思う。現れ出てくるものは全て変わり、うつりゆき、とどまることを知らぬ。しかし、うつろいゆくかたちの奥底にあって尚変わり得ぬものが潜むのであろう。現れ出る

ものに目を奪われず現れの内に將に現れ出ようとしているものを問い続けた古えの先哲たちの愛智の眼差しを、加速度的に早まる変化の時代であればこそ、一層今静かに想い起こすことが求められているように思われてならない。

新会長に海津忠雄先生を迎えて、93集目を重ねる今回の“哲学”には、愛智の息吹の、混迷の時代にあつての尚確かな継続を証するかのように、予想を上まわる多くの論稿が寄せられた。心から感謝する次第である。年二回の通常の発刊形式に戻る来年度においても是非優れた研究の成果が数多く寄せられることを願うものである。(谷 寿美)

### 三 田 哲 学 会 行 事 報 告

1991 年

◇ 3 月 9 日(土) 三田哲学会臨時総会(研究室会議室, 午後 1 時～2 時)

1. 会長の交替について
2. 文学部 100 周年記念行事について
3. その他

◇ 5 月 11 日(土) 講演会(大学院校舎 1 階, 311 番教室, 午後 1 時 30 分～3 時 30 分)  
「Foundation of Morals」

Prof. Dr. Ernst Tugendhat (ベルリン自由大学哲学科教授)

◇ 5 月 27 日(月) 講演会(大学院校舎 1 階, 311 番教室, 午後 4 時 30 分～6 時)  
「ラッセルとブッサールは現象学的還元について同じ考えをもったか」

J. ヒンテイカ (ボストン大学・ヘルシンキ大学兼任教授)

◇ 6 月 7 日(金) 講演会(三田研究室 B, C 会議室, 午後 5 時～7 時)

「Education and the labor Market for Women: Findings from a Comparative Study of Japan, the U.S., and Korea.」

メアリー・ブリントン (シカゴ大学社会学部助教授・本塾訪問講師)

◇ 6 月 10 日 (月) 講演会 (323 番教室, 午後 3 時～6 時)

「音・世界・人間——中国の少数民族, 瑶族の銅鼓を中心として——」

姚舜安 (広西民族学院教授)

◇ 6 月 26 日 (水) 三田哲学会総会 (研究室会議室, 午後 3 時 30 分～4 時 30 分)

1. 1990 年度事業報告

2. 1990 年度会計報告

3. 1991 年度予算案

4. 予算案審議

5. 規約改正

6. 今後の予定

7. その他

◇ 7 月 11 日 (木) 講演会 (311 番教室, 午後 4 時 30 分～6 時)

「これからの数理心理学」

印東太郎 (慶應義塾大学名誉教授・カリフォルニア大学教授)

◇ 10 月 25 日 (金) (講演会日吉藤山記念館, 会議室, 午後 4 時 30 分～6 時)

「『再生』の日本文化——日本人の美意識構造——」

紺野敏文 (慶應義塾大学文学部教授)

◇ 10 月 26 日 (土) シンポジウム (新研究室 1 階, ABC 会議室, 午後 3 時～5 時 30 分)

「言葉と世界の繋がりについて」

石黒ひで (慶應義塾大学文学部教授)

西山祐司 (慶應義塾大学言語文化研究所教授)

服部裕幸 (南山大学)

◇ 11 月 30 日 (土) シンポジウム (大学院棟 313, 午後 1 時 30 分～4 時)

「現代における解釈学の可能性を問う」

報告者 溝口宏平 (大阪大学教養学部助教授)

大石 学 (東洋大学大学院)

舟山俊明 (慶應義塾大学文学部助教授)

司 会 高橋義人 (京都大学文学部教授)

◇ 12 月 4 日 (水) ラウンド・トーク (新研 7 階 Rm. 745, 午後 4 時 30 分～6 時 30 分)

「脳死を考える——脳死 どこが問題か? どこが問題でないか? ——」

講 師 安芸都司雄 (済生会中央病院脳神経外科専門医)

レスポンス 加藤 久雄 (慶應義塾大学法学部教授)

” 樽井 正義 (慶應義塾大学文学部助教授)

司 会 間瀬 啓允 (慶應義塾大学文学部教授)

1992 年

◇ 1 月 16 日 (木) ディスカッション・ミーティング (研究室会議室, 午後 4 時 ~ 5 時 30 分)

「ロシアにおける日本研究の現況」

講 師 A. ナコルチェフスキー (ロシア科学アカデミー哲学研究所研究員)